

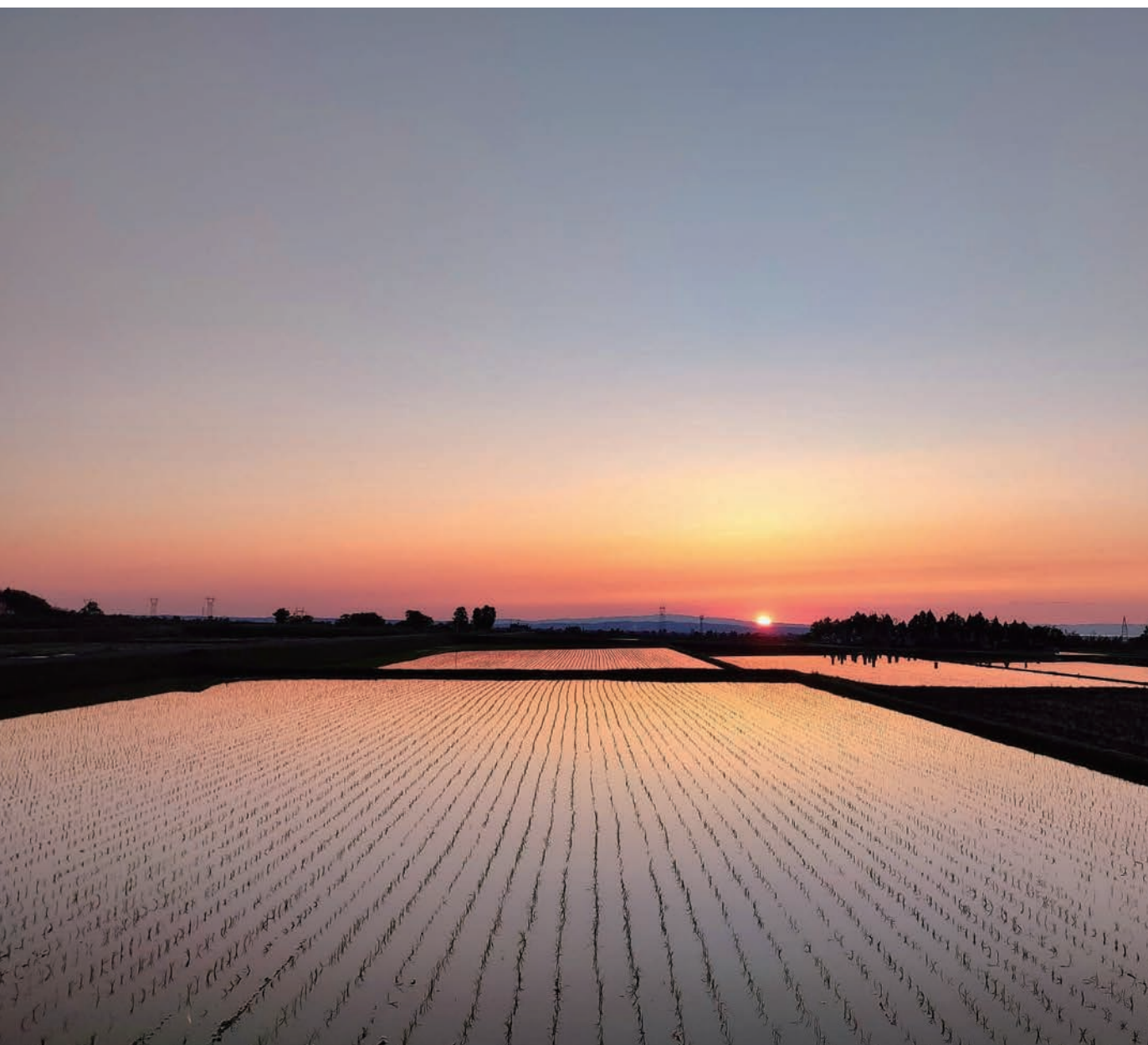
2022

—
秋
冬
号

m a e n o h a

maekawa living magazine まえのは

土と、器と、立山と、



あのひと
の暮らし

豊かな自然を器に映し、
縁を力に、地域に風を。

佐藤 みどり

立山町／陶芸家

訪ねた人：堀 里圭

木の香 株式会社 前川建築
設計部リーダー

富山では、この土地ならではの歴史や風土を受け継ぎながら、日々、新しいまちの魅力が創り出されています。前川建築のスタッフが、仕事や暮らしの中で出会った魅力的な方たちを紹介するこのコーナー。

第2回は、立山町で陶芸家として活動している佐藤みどりさんを、前川建築設計部リーダーの堀里圭が訪ねました。

グリーンとの相性が抜群にいい「ラスター釉・鉢」は、niwanosoで販売。釉薬の表情を、「器の景色」という。

農家の納屋をリフォームした工房で、自身が作った器を手取るみどりさん。「焼き上がった時に、この仕事をしていてよかったと思います。未来に残るかもと思えることも夢がありますね。」

窓からは、青々とした田園や樹木、そして遠くには剣岳が見える。電線など視界を邪魔するものはない。ここは、農家の納屋をリフォームしたみどりさんの工房。2014年に家族で立山町に移住し、住まいを探した結果、「これ以上の物件はない」とひと目惚れし、住宅と併せて購入した建物である。梁を黒く塗ったり、壁を漆喰で塗ったりと、1人で約1年かけて仕上げていったこの空間で作陶をしている。

「昔、『環境が作品に表れる』と言われた事があって。立山町では、朝焼けや夕焼け、水面に映る空と山など、ハッとする瞬間に出会えます。そうした景色が作品に表れたらいいなと思うのがら作っています」。そう話す

右：工房内を明るく照らす画家・HAMU(高校時代の同級生)の絵。左：ガラス作家 Spiralarts&Co. が手がけるコスモランプもみどりさんのお気に入り。



佐藤 みどり Sato Midori

兵庫県神戸市出身。陶芸家、NPO法人「立山クラフト舎」の代表理事。2014年、埼玉県から富山県立山町に移住。2015年にクラフトイベント「立山Craft」を開催し、2017年にその運営を行うNPO法人「立山クラフト舎」を設立。移住後ストップしていた作陶を2019年から再開。



今は、毎日作陶だけをしているわけではない。パソコン作業や家事、子どもたちの世話、畑仕事など、時間の使い方は日によってさまざま。畑では、ニンニク、ジャガイモ、イチジク、イチゴ、枝豆などを自家栽培している。

また、庭の手入れをすること。子どもが池でドジョウやヤモリをとっているそばで、せつせと草むしりをしています。ただ、いろいろな植物を植えたリ、苔のエリアが広がったりしているので、10〜20年後は今より手のかからない状態になっているかもしれない。2人のお子さんを育て、庭を育て、土から器を生む。仕事が暮らしに密着している。

時を遡ること8年前。移住の際、みどりさんは地域おこし協力隊という任務を背負っていた。自分に何ができるのか悩んだ時期もあったそうだが、能登島のクラフトフェア「のとじままつり」で地域活性のヒントを得

る。イベント開催に向け動き出す中で、徐々に協力が現れ始める。翌年にはクラフトフェア「立山Craft」を開催した。

初日の夜には、前川建築が運営している「埜の家」で、出店者とスタッフの交流会が開かれた。「埜の家が持つ空間のエネルギーには、とても恩恵を受けています。いろいろな方々の縁をつないでくれました」と語るみどりさん。埜の家が会場に選ばれたのは、その存在を知った彼女がある日突然、前川建築を訪ねたことがきっかけだ。

その時に会って以来、交流を温めている堀。「埜の家が一棟貸しの宿になった際に、使用するご飯茶碗やコーヒーカップ、キーホルダーを、みどりさんに作っていただきました。器のファンとしても嬉しいですね。もつと皆さんに見ていただけたらと思っています」と微笑む。

多くの人との縁を力に、ものづくりの文化を広める「立山Craft」。8年目の今年は、



立山Craft2022 秋

10/22 10:00 16:00 23 9:00 16:00

会場：立山町総合公園

〒930-3217 富山県中新川郡立山町野沢1

<https://tateyamacraft.wixsite.com/tateyamacraft>

詳細はWebにて



佐藤さん宅の縁側に腰を下ろして会話を楽しむみどりさんと堀。2児の母という共通点も相まって話題が尽きない。



土のクセを殺す「土殺し」という下準備を行った後、電動ろくろを使って手早く美しく成型していく。

みどりさんが大切にしているのは、器が「暮らしの中でいい脇役」となること。落ち着きのある風合いと独特の質感、空間に溶け込む存在感が魅力だ。なかでも「ラスター釉・鉢」は、冷却還元による煤けた雰囲気味わい深さを醸し出している。

その器のファンの1人が、堀である。「緑が映えるので、ほ

うれん草を茹でてそのまま置いてもおいしそうに見えるんです(笑)。軽くて扱いやすいから、普段使いできる器ですね。割れたり欠けたりしても金継ぎをして、ずっと使っています」と熱く語る。

みどりさんが陶芸の道を歩み始めたのは19歳の時。彼女のお母様がアメリカで購入した大量の器の中に、紫色の鮮やかな装飾系の器があった。その美しさに心を奪われ、「こういう器を作れる人になりたい」と渡米。

その作家のもとを訪ね、陶芸を生業とする将来像を明確にした。帰国後は学校や陶芸家のもとで腕を磨き、自分の工房を構えるに至ったという。

朝焼けや山々など立山町の景色を表現した花器「白炭化」。釉薬をかけず、土の質感を生かしていることも特徴。





9 September

sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19 敬老の日	20	21	22	23 秋分の日	24
25	26	27	28	29	30	

10 October

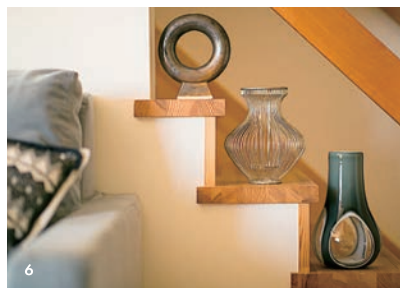
sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10 スポーツの日 こども工務店	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22 立山Craft
23 立山Craft	24	25	26	27	28	29
30	31					

11 November

sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat
		1	2	3 文化の日 感謝祭	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23 勤労感謝の日	24	25	26
27	28	29	30			

12 December

sun	mon	tue	wed	thu	fri	sat
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31



「この光景をキッチンから眺めるのが好きなんです」と微笑む奥様が、niwanosoに「手入れのしやすい楽な庭」を依頼したのは約2年前。家で過ごす時間が増え、癒しの空間を求めているようになったのがきっかけだ。育てやすい樹木がバランスよく植えられ、奥様が自ら栽培を楽しめるスペースもある。水やりや落ち葉拾い、新しい球根の植栽など、庭が生まれてから夢中になれる時間も生まれたという。

LDKにも多種多様なグリーンがさりげなく飾られている。それらの植物は、ヴィンテージの花瓶や手ぬぐいの掛け軸など、奥様の優れた美的感覚がうかがえるインテリアとともに暮らしに潤いを与えている。

「T様ご夫妻が住まいづくりを前川建築に依頼した決め手は、モデルハウスの雰囲気にしっくりきたから。住むほどにかっこよくなる気がしました。30年後にヴィンテージになればいいなと思って」。そう微笑む奥様は当時、通気性の良い健康的な家を望んでいた。今は窓を開ければ、心地よい風が入り室内を流れていく。植物が元気に育っているのも、その証といえよう。奥様の1番のお気に入りには、洗濯機置き場のあるサニールーム。急な来客や天候に左右されず、いつでも洗ってすぐ干せる。その空間とは別に配置した洗面所も活躍。お子さんの友達が玄関から直行して手を洗うという。健康的な習慣も育んでいる。

住み始めてから約6年。無垢フローリングの色も深みを帯びてきた。半年に1回、奥様が蜜蝋ワックスでお手入れをし続けている成果の表れだ。手間をかけて愛着を深めながら、ゆっくりとヴィンテージへ育てていく。✽

あの家の 住まい方

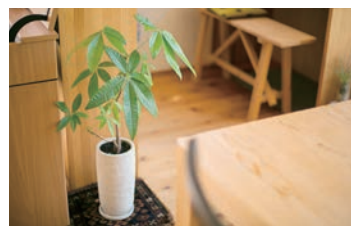
富山市・T様邸
2016年新築

1 石の小道には、石の間にタイムを植栽。その白花を足で踏むと、いい香りが漂ってくる。2,3 庭のそばにある畑では、ご主人が家庭菜園を楽しんでいる。夏にはナスやオクラ、プチトマト、枝豆などを栽培。そのとれたてを奥様が美味しい料理に。素敵な二人三脚である。4 大きな窓を通して四季の移ろいを体感できるT様邸。テーブルの花器に季節を映す心遣いも素敵。5 「外出するより家にいる方がいい」と話す息子さん。6 30~100年前に作られたヴィンテージの花瓶は、奥様のコレクション。7 奥様が海外で撮影した写真と、niwanosoで購入したドライフラワーのリースが、階段の壁面を彩る。



tips:4

右は庭づくりのバイブル。植物のメンテナンス方法などを参考になっている。左の本は、住まいづくりへの理解を深められる一冊。



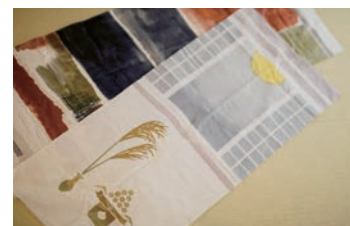
tips:3

奥様が一番初めに購入したパキラは、室内でも育てやすい観葉植物。ユーフォルビアやキングマハラジャなども初心者におすすめ。



tips:2

天井から吊ったフランス製の花器。「目線が上がると、気分も上がる」と奥様。植物の位置に高低差をつけると圧迫感も生まれない。



tips:1

床の間の掛け軸には、「にじゆら」「hani IRO」などお気に入りの手ぬぐいを使用。季節ごとに変えることも、奥様の楽しみのひとつ。

スタッフ紹介

MAKEAWAグループのスタッフに、休日の過ごし方や、お気に入りのモノ・コトを聞きました。

Kawase Yoshie

川瀬 由絵

● 設計スタッフ

毎朝、朝日を浴びるのが日課。その後、雄大な立山連峰を眺めながら、渋滞に遭わずに出勤できることに幸せを感じています。設計は、小さい頃からの夢。地域の美しい風景に馴染む建築物をご提案できるような日々学んでいます。仕事は大好きですが、オンオフの切り替えも大切。休日には頭をまっさらにするようにしています。最近は娘の影響でサッカー推し。近隣の試合を観戦することが多いのですが、ゴールが決まった瞬間、大きなフラッグが一斉に振られるんですよ。その光景が圧巻でスカッとなります。



お気に入り

海釣りを楽しみながら、能登のきれいな景色を楽しむことが好きです。この写真は11月、能登の穴水に出かけた時のもの。6時58分に見た景色です。

きれいな景色と、サッカー観戦で、いつもスカッ！



Shirosaki Taiki

城崎 大貴

● (株)コノカ工務(現場監督)

思えば、長く使える良質なものが好きなのかもしれません。独身時代に購入した高価な革靴は、リペアしながら大事に履いています。仕事では、主にリノベーション物件の現場監督を務めています。空き家が多いので直せるものは直して活用していけたらと思っています。毎日、昼は愛妻弁当。祖母から教わった「感謝の気持ち」を忘れないよう心がけています。そして、休日は子どもと公園などで遊ぶのが楽しみ。最近、娘はUFOキャッチャーにハマっているの、私も一緒に頑張って熱くなっています(笑)。



お気に入り

写真は、アーコールのダイニングテーブル。新築時に妻と一緒にお店で選んで購入した、50～60年前のイギリス製アンティーク家具です。一目惚れでした。

家族も仕事も家具も革靴もずっと大切にしたい



おうちの
お手入れ

凍結予防

給湯配管

寒さが厳しくなるこれからの季節。朝「お湯が出ない!」という事も。そんなトラブルを防ぐための予防策をお伝えします。

☑ 電気温水器、エコキュートの場合

- ① 入浴後に湯船にはったお湯を循環口から5cm程の高さまで残しておく。(フルオートの場合)
- ② 湯温を水にし、給湯栓を少し開けて水を流しておく。(水滴がポタポタ落ちる程度)

☑ ガス給湯器の場合

- ① 給湯器の電源プラグを抜かない。
- ② リモコンのスイッチを切って給湯栓から水を出しておく。

☑ それでも凍ってしまったら…

- ・ 自然に溶けるのを待つ。
- ・ 凍った配管部分に人肌程度(30～40℃)のお湯をかけて溶かす。
※熱湯だと配管が破損する恐れがあります。



i n f o r m a t i o n

コノカ大町リノベーションモデルハウス

「外とつなが家」OPEN!

築45年、平屋の中古住宅。懐かしさを感じる落ち着いた雰囲気はそのままに、縁側の大きな窓から中庭が見える癒しのLDK空間へ生まれ変わりました。コノカのリノベーションモデルハウスにぜひ一度、遊びにきてみませんか？



小学生
対象

楽しく学ぼう! 家づくり体験
こども工務店開催

10/10
10:00～16:00

家づくりに関わる沢山の職人から、楽しく家づくり、モノづくりを学べるこども工務店。9月よりWebサイトのフォームから参加受付を予定。



オーナー様
限定

前川建築グループお客様限定企画
感謝祭2022

11/3
10:00～15:00

前川建築グループのお客様をお招きして、3年ぶりの感謝祭を開催します。日ごろの感謝の気持ちを込めて、餅つき、カフェ、木工ワークショップなど、盛沢山の内容で皆さまのお越しをお待ちしております。

編集後記

2冊目のmaenoha。秋冬号がお手元に届く頃には秋らしい涼しさになっているでしょうか？ところで、皆さんの「秋と言えば…」は何ですか？食欲の秋、芸術の秋、スポーツの秋、いろいろありますね。私の秋の楽しみは、今回取材させていただいた佐藤みどりさん主宰の「立山Craft」。毎年ワクワクしながら参加するイベントです。あとは、立山産のラ・フランス。とっても甘くておいしいんです。10月中旬頃から出回っているのでぜひ食べてみてください！



m a e n o h a 2022 秋冬号

2022年9月1日発行

企画・取材・文／まえのは編集部

編集／河岸 素子

表紙写真／佐藤 みどり

写真／松井 洋貴

イラストレーション／おざわ さよこ

エディトリアルデザイン／三浦 由佳 (ワークス)

発行／MAEKAWAグループ

〒930-3221 富山県中新川郡立山町四谷尾691-4

Tel: 076-462-0611

<https://maekawa-kenchiku.com/>

